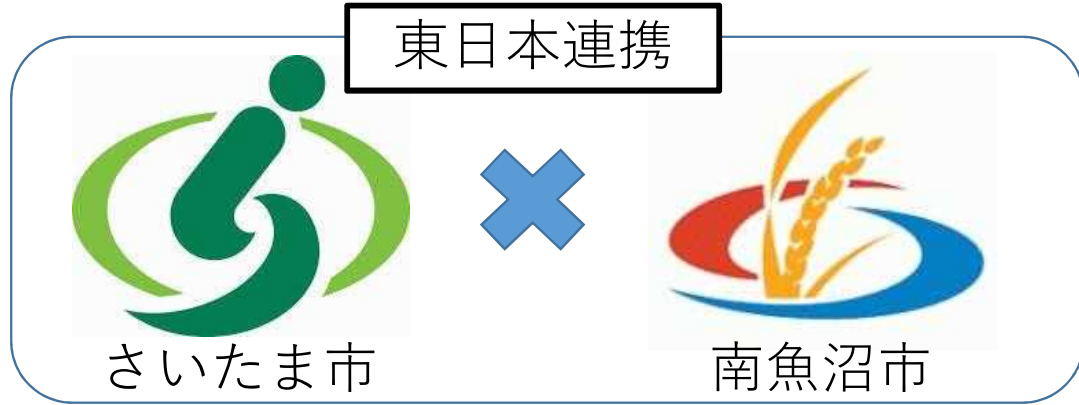


# 東日本連携による雪を活用した熱中症予防対策実証事業

## 1 さいたま市と南魚沼市が熱中症予防対策で連携



8月4日  
埼玉スタジアム2002



8月25日さいたま  
スーパーアリーナ

2020東京オリパラにおけるサッカーとバスケットボールの開催都市であるさいたま市と友好都市である南魚沼市が連携して熱中症予防対策。



①高さ5m、2,000m<sup>3</sup>の雪を厚さ50cmのウッドチップで被膜して南魚沼市内に保存。  
(7月末に高さ約4m残の実績)



②保存した雪山から、重機で塊を取出し、家庭用除雪機で細かく砕きながら、1m<sup>3</sup>タイプのフレコンバックに詰めて搬送。



## 2 熱中症予防対策の内容

### ①雪のクーラー



### ②スノーパック





### 3 熱中症予防対策の効果検証



A：ミストファン＋スノーパック

最寄り駅

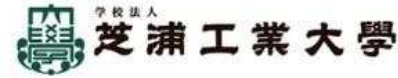


会場



B：雪のクーラー設置

クールスポットの効果検証を行うために、WBGT値の計測については「芝浦工業大学」、アンケート調査については「新潟大学」の協力を得て検証を実施。



多国語対応した  
ポスター等  
掲示物で  
注意喚起！



最寄り駅から会場までの導線上や周辺で暑さ対策を実施。

A：テント外では、ミストファン及びスノーパックの配布によるクールダウンを実施。

B：テント内を雪のクーラーで冷房し、通路として利用し、「冷房されたトンネル内を通過する」イメージ。

#### ①WBGT値の計測

- ・雪のクーラーで冷房した場合、エアテント及びイベントテントの両方でWBGT値の大幅な低減を確認。

#### ②アンケートによる体感等のデータ収集

- ・猛暑日は雪によるクールダウンの効果が大きいことを確認。
- ・今回の注意喚起により、大多数が「熱中症予防対策の重要性」を認識